

東京市電爭議略史

明治四十四年十二月三十一日—四十五年一月五日 罷業

原因及經過

- 一、東京鐵道會社が東京市電氣局ニ買取セラレ從業員ハ解散手當ヲ支給サレテ市電ニ繼續勤務スルコトニナリシガソノ手當ガ高級役員ニ厚ク現業員ニ薄カリシ爲
- 一、井上運輪課長及安藤電燈課長等ノ手當金ノ提供ニヨリ解決

大正八年九月

中西伊之助等ニヨリ日本交通労働組合結成セラル

大正九年二月二十四日—二十九日 六日間 怠業

原因及經過

- 一、大正八年十一月一日 一日給制實施一八時間労働制ニ人格尊重ニ半期末手當二ヶ月支給一退職手當制度等五ヶ條ヲ要求セントシ首謀者十名解雇セラレ茲ニ於テ日交ハ十一月十日一労働條件ノ要求ニ關スル宣言ナル印刷物ヲ市内ニ配布シ、待遇改善ニ關スル希望條件二十一

ヶ條ヲ東京市長ニ提出ス 同警視總監ノ調停ニヨリソノ結果人格尊重、半期末手當、退職手當ノ三件ハ承認セラレ其ノ他ハ考慮スルコトニシテ一時解決セリ

三、大正九年初期以來從業員ハ當局ノ待遇改善ノ實行ヲ期待シツツアリシモ進捗ハカバカシカラザリシタメ焦燥シ、二月二十一日以來代表者ノ交渉開始トナリ遂ニ廿四日ヨリ一部怠業 廿六日ニハ全線怠業當局ハ二十八日左記改正案ヲ發表シタルニヨツテ廿九日怠業中止

一、乗務八時間、休憩時間合計約十時間（現在十一時間）

二、十日ニ一日ノ公休ヲ八日ニ一日トス

大正九年四月二十五日—二十九日 五日間 罷業

原因及經過 四月十七日 日交ハ八時間労働制、日給制確立及中正會（御用團體）ノ排撃ノ決議ヲナシタル所、四月廿五日朝一監督ノ失策ヲ誘因トシテ全線罷業トナル